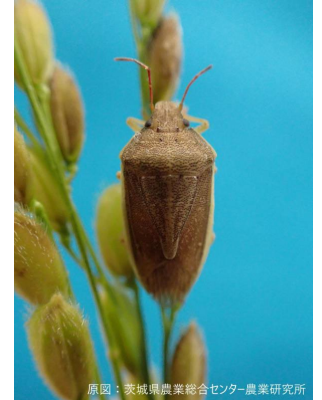


不稔米を発生させるイネカメムシの

被害にご注意ください

- イネカメムシの発生が近年、拡大傾向にあります。
- イネカメムシは、基部斑点米を発生させる他、出穂期に籾の基部を加害することにより、**不稔米を発生**させます。
- 発生量が多く、適期の防除が実施されていない場合は、**大幅な減収となる可能性**があります。
- 他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく**出穂期に防除**することが重要です。



イネカメムシの成虫



イネカメムシ幼虫（5齢）



基部斑点米

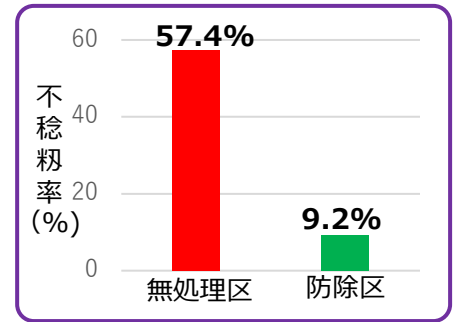


図 イネカメムシの不稔米に対する防除効果

注)防除区：登録農薬の散布を出穂期0日後と出穂期14日後に実施
山口県農林総合技術センターの試験研究結果から抜粋

イネカメムシに対する防除対策

○情報のチェック

都道府県の病害虫防除所が発表する発生予察情報などの病害虫の防除に関する情報をこまめに確認し、**地域の発生状況を把握**しましょう。

都道府県の病害虫
防除所のHP一覧



○圃場内への初期の侵入を把握

圃場の見回り、白色粘着板トラップの利用等により、**圃場への初期の侵入の把握**に努めましょう。他の斑点米カメムシ類と異なり、イネカメムシは稲への嗜好性が高いため、畦畔や水田の周辺のイネ科雑草で確認されることは少ないです。

○防除の実施

イネカメムシの発生量が多いと判断した場合は、**出穂期の臨機防除**を実施しましょう。また、過去から発生量が多く、被害が懸念される地域は、**出穂期の防除を計画的に実施**しましょう。防除後も圃場の発生状況を確認するために、圃場をよく観察しましょう。

※地域や栽培体系などにより、使用する薬剤など、効果の高い防除体系は異なります。
都道府県が発表する情報に基づき、イネカメムシに対して、より効果の高い防除を実施してください。

イネカメムシとは

体長 12-13mm の茶褐色のカメムシで、斑点米カメムシ類の一種である。かつて斑点米カメムシ類の主要種であったが、1960 年台以降に国内で発生量が減少。

しかしながら、近年、本種の発生量が増加している。温暖化に加え、経営規模の大規模化や新規需要米の増加により、地域内で作期の異なる品種が栽培されていることが近年の発生量の増加の要因の一つとして考えられている。

(1) 被害

水稻の籾の基部を加害することにより、基部斑点米を生じさせる。また、他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂期から登熟初期に籾を加害し、不稔を生じさせる。不稔が生じた稲は、穂が充実せず直立する。

周囲の水稻より出穂が早い圃場の場合は、本種が集中する可能性がある。

(2) 生態

冬は成虫で越冬し、7月中下旬の水稻の出穂とともに越冬場所から水田に侵入してくると考えられている。

昼間は株元に潜み、夜間に加害する加害を行う。本虫は、年1世代又は年2世代である。

他の斑点米カメムシ類と異なり、稲への嗜好性が高く、畦畔や水田周辺のイネ科雑草で確認されることが少ない。



写真 左：成虫、中：5 齢幼虫、右：基部斑点米